

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

エントリー学校名：福島県福島市立福島第四中学校

活動名：不登校防止システムの構築

～職員の連携と支援室の整備を通して～

解決すべき課題：

近年、生徒は落ち着いて生活し、どの授業にも集中して取り組む様子が見られる。しかし、家庭内環境、学業不振、特別な支援を要するものなど様々な要因から、県内の不登校生徒は1000人を超えており（令和元年7月現在）、その数は毎年増加の一途を辿っている。本校も例外ではなく、2017年3月末には全校生徒の約12%が不登校（年間30日以上欠席）となるなど、近年、不登校対策は生徒指導上喫緊の課題となっている。

目標・方針：

学習支援室への登校の方法・目標について明確にし、職員が一体となって生徒の支援にあたることにより、不登校の出現や増加を防止する。  
 学習支援室の環境整備、学習支援室の広報（紹介）を充実させることで、別室登校者の継続登校および、完全不登校の改善を図る。

活動内容：

学習支援室登校の目標、登下校方法等について生徒指導委員会で協議し、定めるとともに、職員会で全職員に共通理解を図った。特に、事務職員を含む組織全体で、「いつ、どういう生徒が」学習支援室に登校しているのかわかる仕組みの構築を強化し、多くの職員が対象生徒に関わりやすい体制をつかった。  
 学習支援室の紹介プリントや家庭訪問カードなどを作成することで、完全不登校の予防・改善を図った。

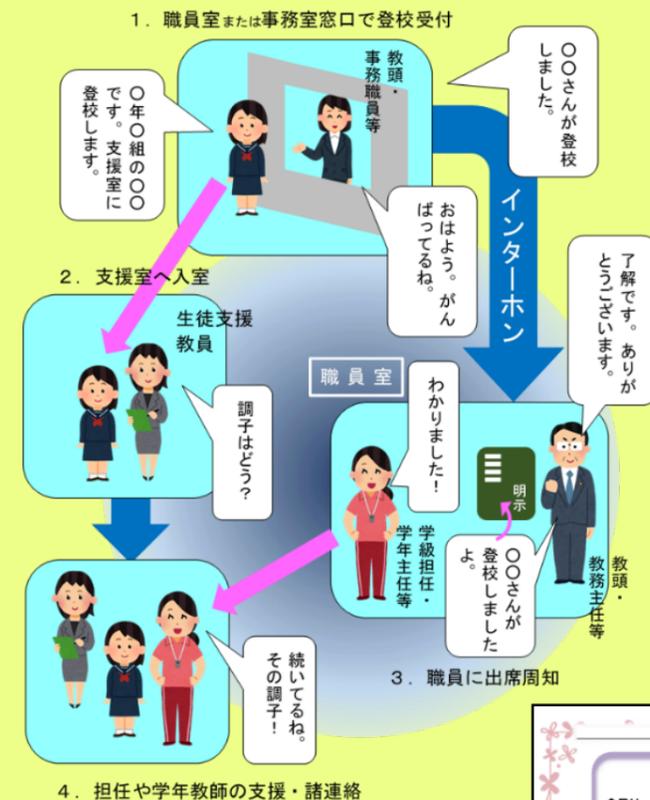
活動の成果：

年間30日以上欠席者が減少するとともに、学習支援室を利用し、登校回数を増やすことができたり、主に学習支援室で過ごしなが、授業に参加できる時間数を増やしたりできる生徒の割合が増加した。また、職員間の連携が円滑になったことで、情報の共有化が図られ、不登校の未然防止につながった。さらに、復帰困難と考えていた生徒が、教師の働きかけで登校できるようになることで、教師自身が仕事に充実感を感じ、より意欲的に生徒支援に取り組むようになった。

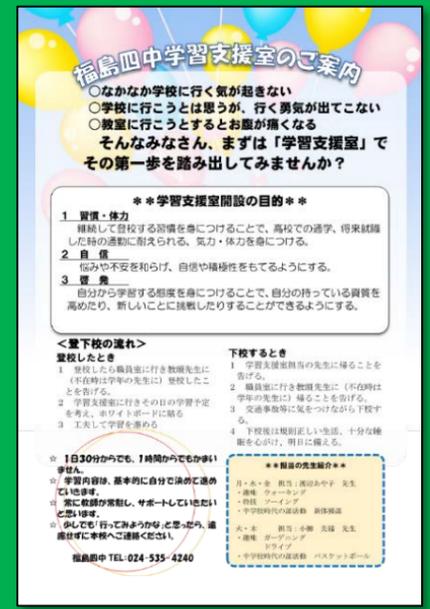
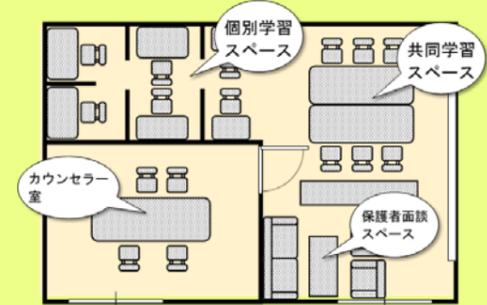
アピールポイント（アイデアや工夫）

- 学習支援室登校の方法・目標についての明確化
- 全職員を巻き込んだ生徒支援体制
- 安心して登校できる環境整備
- 紹介プリントや家庭訪問カードのデザイン充実→手厚い支援のイメージを強化→安心感

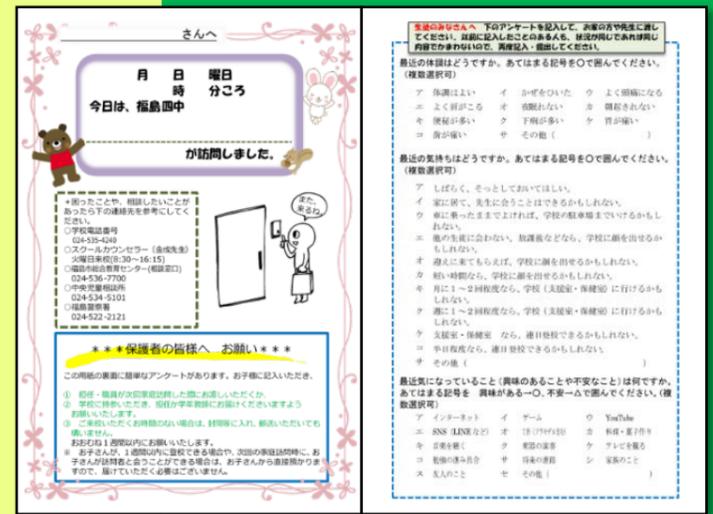
### 1 学習支援室への登校方法と、職員の役割 イメージ図



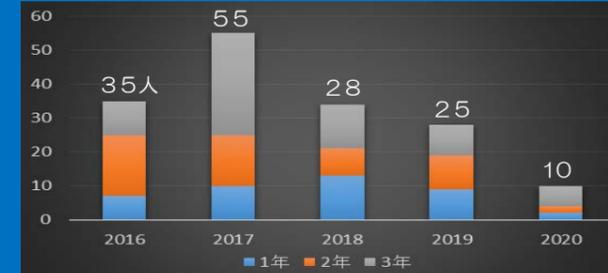
### 3 学習支援室レイアウトの工夫・環境整備



### 2 学習支援室紹介プリント(上)と家庭訪問カード(下)

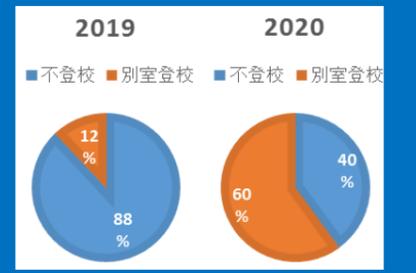


### 4 不登校生徒数の推移



各年度3月末（2020年度は9月末）

### 5 別室登校者の割合



30日以上欠席者のうち、別室利用者の割合